

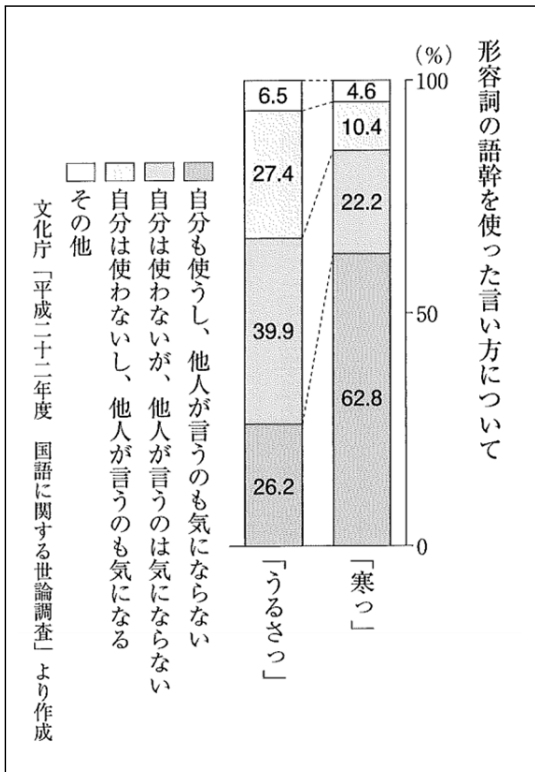
課題作文練習

どんぐりスクール

出典 二〇一二年度・青森県立高等学校入試・大問七

次の資料は、ある中学生が「形容詞の語幹を使った言い方」について図書館で調べてまとめたものの一部である。これを見て、後の(1)～(3)に従って文章を書きなさい。

私は、「冬、暖房の効いた建物から、気温の低い外に出たとき」の「寒^{さむ}っ」という言い方と、「車の騒音がひっきりなしに



続く道を歩いているとき」の「うるさ^{うる}さ」という言い方について、「自分は使うかどうか」、また「他人が言うのは気になるかどうか」という質問に対する答えの割合を調べ、左上のようなグラフにまとめた。

- (1) 題名を書かないこと。
- (2) 二段落構成とし、第一段落では、二つのグラフを比較してあなたが気づいたことを書き、第二段落では、そのことについての自分の意見を書くこと。
- (3) 百五十文字以上、二百字以内で書くこと。

■採点基準（青森県教育委員会発表）

- ・字数が百五十字未満、または二百字を超えた場合は1点を減ずる。
- ・二段落構成でない場合は1点を減ずる。
- ・第一段落にグラフを比較して気づいたことを、第二段落に自分の意見を書いていない場合には、それぞれ1点を減ずる。
- ・表現に関する誤り（文法、文体、語句の意味、用法、主述の照応等）が三か所あるものは1点、四か所以上あるものは2点を減ずる。
- ・表記に関する誤り（文字、かなづかい、句読点、符号の使い方等）についても、右の基準を適用する。

※ 本問の配点は十点である。